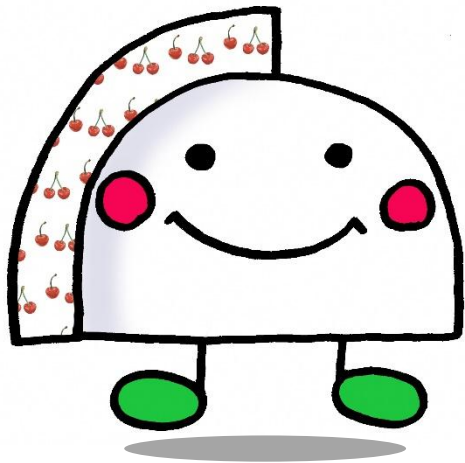


学び続ける教師を支える研修体系設計に係る研究 — すべての教職員に充実した学びの場を提供するために —



研究メンバー

所属課	氏名
研修課	阿部瑞枝、高橋千雲、岸淳一郎、丸山あき子、小林福太郎
研究・情報課	小池正春、澁間安、狩野峰彦、芳賀崇
特別支援教育課	古澤智、鏝水佐知子
教育相談課	岩井暁子



内容

1. 研究の経過
2. 第1年次（令和5年度）の研究報告
3. 第2年次（令和6年度）の活動内容・研究報告
 - ONITSの提案から
 - 研修者が主体となる発意と振り返りのあり方
4. 次年度（令和7年度）の展望



1. 研究の経過（1）

「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学びの転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換が求められている。

➡ 「**新たな教師の学びの姿**」の構築へ

◇ねらい

大テーマである「ウェルビーイングの実現に向かう学校を支援する」ことを目的に、質の高い研修体系をつくる。

◇研究期間

令和5年度から3年間

◇趣旨

- ・すべての教職員が負担なく自発的に研修に参加できる、「学び続ける教師」を支える環境の充実を目指す。
- ・従来の研修講座の内容・実施形態等の改善点を研究し、充実した学びの場を提供する。

1. 研究の経過（2）

◇ 3年間のおおまかな流れ



「横断・縦断・連携」

「ニーズを反映した研修づくり」



2. 令和5年度（第1年次）の研究報告

(1) 「学校マネジメント講座」について

年間にわたる省察的実践を通して、全校的な学び合い文化を醸成しながら、学校マネジメントに必要な資質・能力の向上が図られているか、アンケートによる分析を行った。

(2) 新庄市立明倫学園（義務教育学校）の視察について

義務教育学校の授業・学習面の小中連携を中心に調査し、メリットや効果等を明らかにして、教育環境の向上に資するための情報を収集した。

(3) 研修形態別の満足度調査について

「ニーズを反映した研修づくり」の視点から「研修形態別の満足度調査」を実施し、受講した研修形態（集合型、オンライン型、オンデマンド型）に対する満足度の分析を行った。

(4) 事後アンケート・振り返り結果について

事後アンケート「研修形態別の満足度（4＋3）」は、各形態いずれもほぼ100%だった。

（集合型：98.9% オンライン型：96.9% 回答：任意）

振り返り「研修の充実度（4＋3）」は、ほぼ100%だった。

（基本研修：99.5% 専門研修98.3%）



3. 令和6年度の活動内容

◇第2年次の進め方

以下の2つの視点で研究を進める。

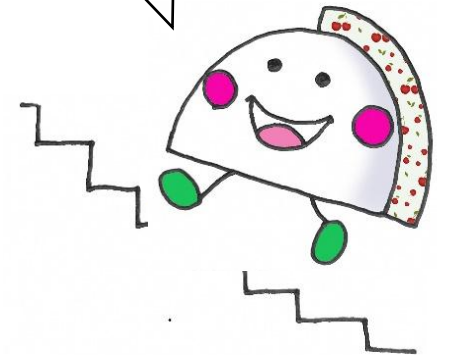
- ①「**横断・縦断・連携**」
- ②「**ニーズを反映した研修づくり**」

◇第2年次の活動内容

研修の内容についての研究

- ①学びを深めるための研修のあり方
- ②研修者が主体となる**発意**と振り返りのあり方

発意とは、自己の実践の深化のために、取り組みのきっかけや挑戦(やってみよう)を言語化することだよ。

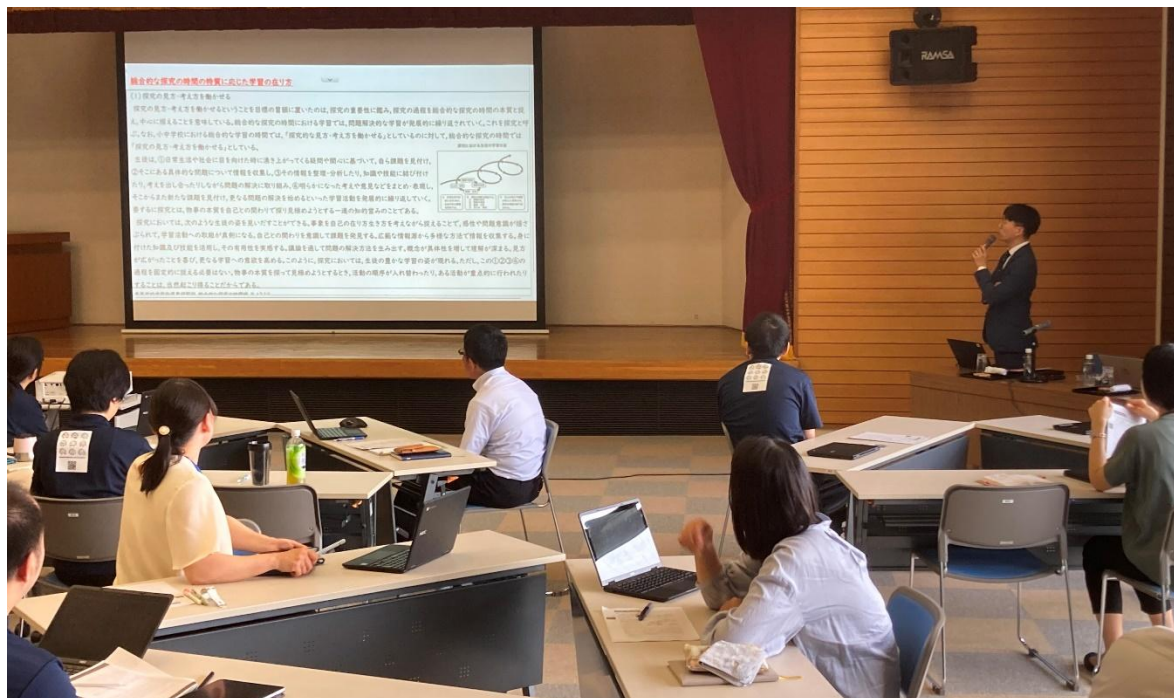


3. 今年度の報告①

「発意」と「振り返り」について（NITSの提案から）

「研修観の転換」の話題を提供を受けて

「教師の学びの姿も子供たちの学びの姿の相似形である」



3. 今年度の報告①

「発意」と「振り返り」について（NITSの提案から）

研修者に「どのような豊かな気づきや変化があるか」を大事にし、

そのような「気づきや変化」が起きるために

- 「何を学ぶか」を検討し、
- その内容を「どのように学ぶか」

インプットより
アウトプットを増やそうか？

「モヤモヤ～」も、
学んでいる姿では？

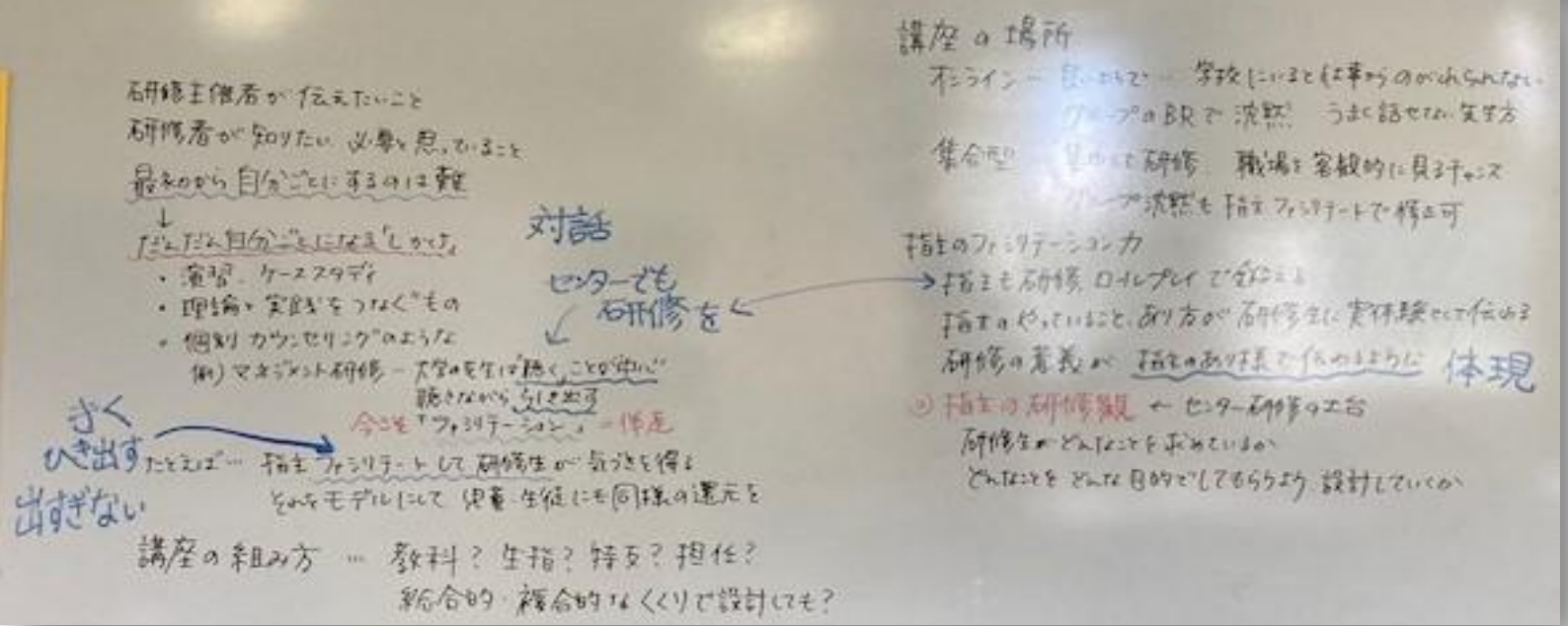
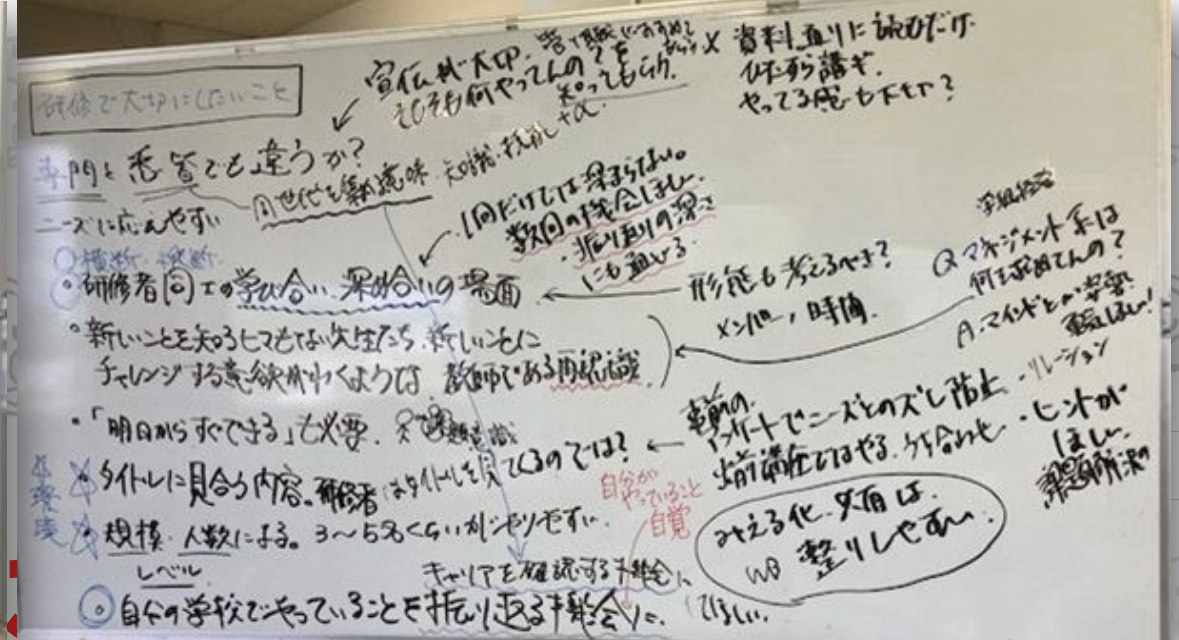
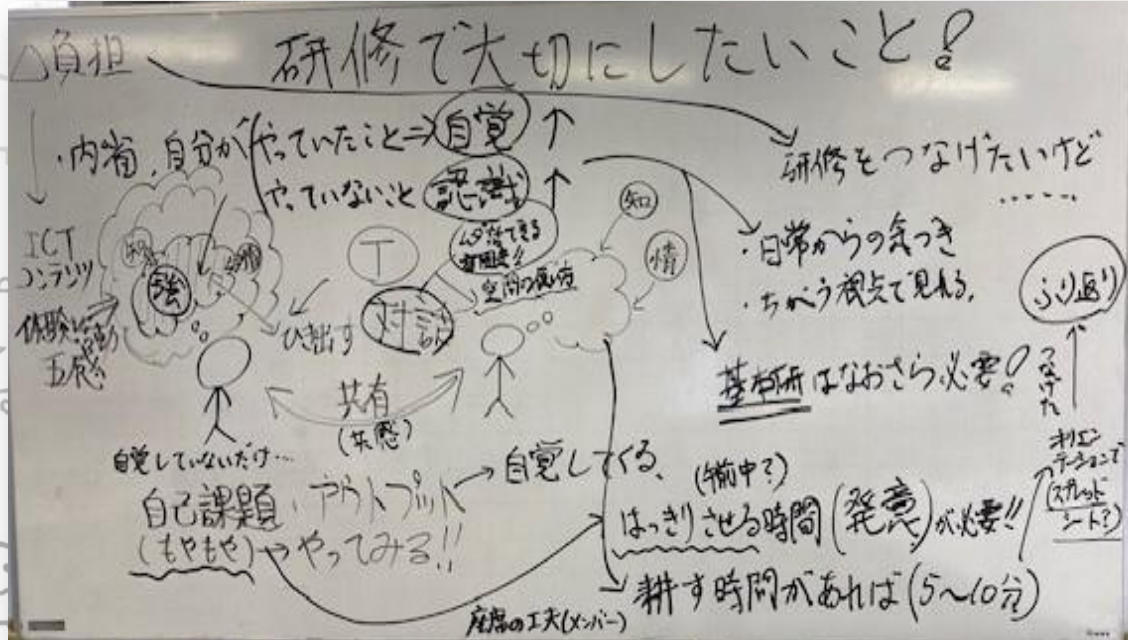


「問い」の吟味が
ポイントでは？

という研修者の具体的な学びの姿を考え、構成することが必要

3. 今年度の報告②

担当者会での学びについて



3. 今年度の報告②

担当者会での学びについて

もやもやとした課題

これでいいのかなあ やってみたいけどわからないなあ なんでうまくいかないのかなあ なんの研修なのかなあ

研修者自身が自分の実践を見つめなおす
自分がやってきたことを言語化・意識化する

より主体的で深い学び

明日からの挑戦

さらにもやもや

仲間をつなぐ 

3. 今年度の報告②

担当者会での学びについて

聞いたり
引き出したり
すること

実践してきたことの
価値づけ

出すぎず
見守ること

ファシリテーターとしての役割

似たような考えの
研修者同士をつなぐ

話していることの整理

3. 今年度の報告②

担当者会での学びについて

これからやれそうなこと

講師も確認可

共通点 ⇒

- 自覚 自事
- 再認識

① 時間設定 (旧専門研の例) 9:30~

② 発意の時間 (15分+10分) 10:10-10:20

(自己課題を確認 → G → 発表)

③ 対話、質疑の時間 進行、Fシリ → 指主

④ 振返の時間 16:00-16:20 振返+G

→ 本物の学び、明日から実践

AM 講座 後 11:50-12:00

PM 講座 前 13:00-13:10

→ PM 講座後 16:00-16:20 振返+G

→ 本物の学び、明日から実践

7/8(用) これからやれそうなこと やってみたいこと K-H.Yグループ

- 講座の朝伝えることの吟味、特に目的なし
- 主担当の願いを含めて (個人テーマ、悩みを明確にし、互いに学び合う解決へ)
- タイトルと内容の再検討 講座案内、プリント
- 講座案内 各校2冊の周知、宣伝 → Webアプリ、ミニポスターA4版、電子版のDJI、キャンバ
- センター内で互いに研修を見に行き (横断) 高の課題研究、教科別別 のぞきに行く
- 中堅研が初任者にアドバイス (系統別) 10/10/10 全体構想 日程...
- メンバーによる高まりが△△△、グループ途中でシェア、グループ作り方 → 形態 種類、曲
- 入会会議 受講者もファシリテーターが、みえる化共有も
- 受講者が主体的になるように、本人のテーマ、悩んで
- アイスブレイク、エンカウンター (短時間) のおすめ集、フォルダ、参集型の良玉高める工夫
- 教科別で行っているものを教科本フロン
- 民間研修を見参考にした、10/10/10 他部が受ける、行く

意識を高める

改善 16:00~ リフレクションは 目的やねらい、立ち回る伝え方 自覚、朝と今のビフォーアフターに 気づく

環境

プリントの為にR6は↑↑↑↑↑↑ 9:50~10:15 休け 16:00~16:20の吟味

グループでさせばなしははやくよく見て、停滞していたら一時停止してから再開する

ヤコン、車、バス、カー、コンビニ、SPA



講義演習に関わる指主の人数増について

- グループ協議の担当班あり
- ファシリテーター
- 受講者の受容をみる
- 主たる講師との連携、講座内反映
- 受講者の考えを把握が、多量に
- グループ協議の内容をさらに深める時間作り

講座設計の見直し → 何を残して何を削るか

- 内容 (伝達と演習の割合)
- 時間
- 資料 (教科、教育課題、+ 総合的のもの、整理)
- リフレクションのあり方
- 対話増にしたいときの指主のあり方 (指導即言?)
- 運営スタッフの適性人数

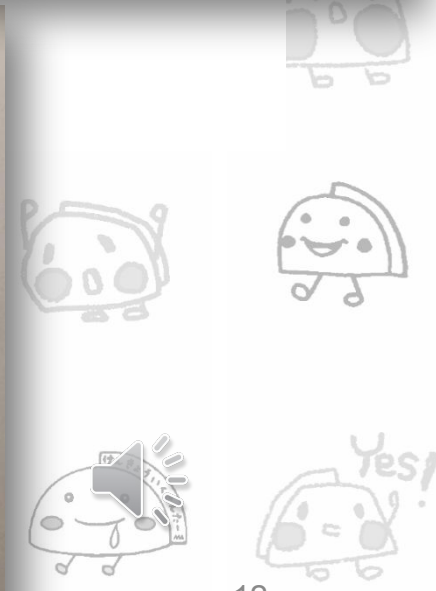
現在開講の講座分析

- 指主アンケート?
- 講座ごとに、生かせることを探る?
- 「よし」の分析... どの部分? なぜ? 「よし」とは何か?

受講者の満足度はどうやって

はかるのがよいのか??

研修うけても何もできることも悪いことではあるはず???



3. 今年度の報告③

来年度の講座について

日程・内容【スタッフ用】

日時	研修内容	備考
9:30～ 9:50	受付	
9:50～ 9:52	オリエンテーション	
9:52～ 9:55	諸連絡 (発意・リフレクションの目的の説明)	・発意用プリントの準備 →個人で焦点化
9:55～10:00	個人発意	
10:00～10:02	開講式	
10:02～10:15	イントロダクション (発意の時間)	・講師はここから参加 ・グループで伝え合い ・オンラインの場合、限内で ※講師・指導主事メモ
10:15～12:00	講義・演習 (発意の部分を取りあげてもらう)	
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～15:30	講義・演習	
15:30～15:50	リフレクション (振り返り)	・発意の内容を含めたリフレクションにする。 ・より効果的なリフレクションができるように、主担当が幅を持たせて実施可能。
15:50～16:00	閉講式・諸連絡	

〇〇月〇〇日(〇)



3. 今年度の報告③

来年度の講座（専門研）について

探究のサイクルシート (提出する必要はありません。)

講座名：()
講座日：(/)
受講番号・所属・氏名：(受講番号) ・ (所属) ・ (氏名)

イントロダクション（発意）とは、自己の実践の深化のために、取り組みのきっかけや挑戦（やってみよう）を言語化することだよ。イントロダクション（発意）、講義、演習、リフレクション（振り返り）を通して、より主体的で深い学びを目指し、実践力の向上を目指していくよ。


I イントロダクション（発意）
① 受講する講座に関連した領域で、今までやってきたことや現在挑戦していることは何ですか？
② ①に関して、今日学びたいことは何ですか？

II リフレクション（振り返り）
① 本日学んだことは何ですか？

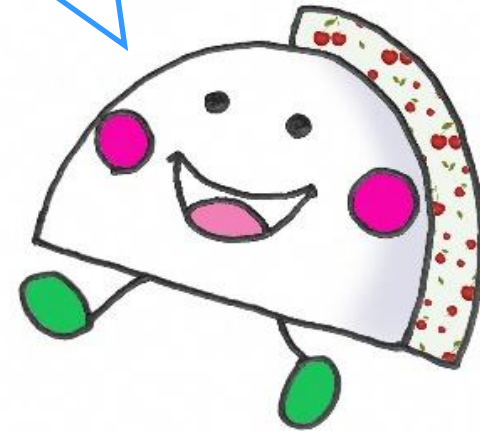
II リフレクション（振り返り）
② 明日から取り組んでみたいことは何ですか？

教師の探究のサイクル

Plant 入力の URL : <https://plant.nits.go.jp/> ○月○日 () までに入力



例
発意から振り返りの
流れを一体的に



3. 今年度の報告③

来年度の講座（基本研）について

例

1 県教育センター研修

第1回 【集合型研修】 5月30日（金）

テーマ「どんな保育をしたいか」

イントロダクションで新採研への発意（どんなふうに全3回の研修を学んでいきたいか）を促し、午後のグループ協議で研修者がこれからの研修や日々の業務で探究したい問いをもつことがねらいである。また、対話型の研修を通して、各自が「得たもの・感じたこと」＝「学び」であることを共有する。

	日時	研修内容	方法	講師等	会場
5 月 30 日 （金）	9:30～9:50	受付			県教育 センター
	9:50～10:00	オリエンテーション		指導主事	
	10:00～10:30	開講式・イントロダクション		指導主事	
	10:30～12:00	特別な支援を必要とする幼児の理解と対応	講義・演習	指導主事	
	13:00～13:40	自分が目指す幼児教育	グループ協議	指導主事	
	13:50～15:20	学級経営の基本	講義・演習	幼稚園等教員	
	15:30～16:00	リフレクション・諸連絡			



3. 今年度の報告③

来年度の講座（基本研）について

例

第2回

テーマ「保育の質を上げる。保育を見つめる視点をふやす。」

様々な視点から保育について学び、グループ協議の中で学んだ内容を生かして研修者が現状分析と自分に取り組めることを考えて、現場での取り組みにつなげることがねらいである。2日目のイントロダクションでは、前回の研修からの自分の保育の変化（小さいことでよい。）についてグループ共有を図りたい。

【オンライン型研修】 7月 8日（火）

	日時	研修内容	方法	講師等	会場
7月8日 （火）	13:30～13:50	受付			各所属園等
	13:50～14:00	オリエンテーション			
	14:00～15:00	子どもの食生活と食育	講義	大学教員	
	15:20～16:20	保育の質を高めるために	講義	大学教員	
	16:20～16:30	諸連絡			

【集合型研修】 7月 9日（水）

	日時	研修内容	方法	講師等	会場
7月9日 （水）	9:30～9:50	受付			県教育センター
	9:50～10:15	オリエンテーション・イントロダクション			
	10:15～12:00	保護者との信頼関係づくり ～教育相談の考え方を活かして～	講義・演習	指導主事	
	13:00～14:10	健康で安全な園生活のために	講義	養護教諭	
	14:20～15:30	保育における私のチャレンジ	グループ協議	幼稚園等教員	
	15:30～16:00	リフレクション・諸連絡			

【13時～13時40分】のグループ協議では、

日頃の愚痴ばかりに話題がいかないよう、今ある現状で自分には何ができるか、前向きな協議になるよう、適宜指導主事がグループに入るようにする。



4. 次年度の展望

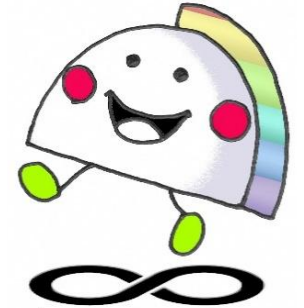
質の高い研修体系をつくるために

○効果的な「イントロダクション（発意）」の方法を引き続き検討

- ・イントロダクション（発意）を含めた研修の運営
- ・イントロダクション（発意）→リフレクション（省察）のサイクル

○研修における「学びのサイクル」の検証

- ・各研修講座での研修者の「学びのサイクル」の見取り
- ・「学びのサイクル」を引き起こす効果的な仕掛けの検討



「令和の日本型学校教育」を
実践するために求められる“新
たな教師の学びの姿”とは？

“新たな教師の学びの姿”を
“子供の学び”に繋げる「質
の高い研修」とは？

